

# 京 都 大 学

## 医 療 技 術 短 期 大 学 部 紀 要

第10号

1990年

### 目 次

#### 原 著

- 加藤 寿宏, 小西 紀一: 正常児の側方眼球運動..... 1
- 山根 寛, 福永サダ子: 精神科作業療法とクライシス介入訪問  
—被害妄想を持つ分裂病患者の場合—..... 7
- 尾坂 良子, 竹之熊淑子, 荒川千登世: 看護学生の学習上の負担要因について  
—日本とインドの調査研究—.....17
- 三井 政子, 岡本喜代子: 学士課程における助産学教育の現状と課題.....31
- 石井 誠士: 人間の現在—哲学的省察—(承前, 六).....43

#### 抄 録

- 第4回京都大学医療技術短期大学部健康科学集談会.....57
- 投稿規定.....60

#### 編集後記

京 大 医 短 部 紀 要

ISSN  
0286-7850

## 投 稿 規 定 (平成元年9月20日改定)

**投 稿**：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著者であるものに限る。

**論文の受付**：原稿（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

**原稿の書き方**：原稿は、次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に\*、\*\*……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）およびKey words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。
3. 欧文原稿および英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。度量衡は、CGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言 (Introduction) 材料 (Materials), 方法 (Methods), 結果 (Results), 考察 (Discussion) などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

- 1., 2. ……行の第1字目に記す。  
1), 2) ……行の第2字目に記す。

5. 図 (Figure) および表 (Table) には、それぞれ別の通し番号をつける。図版 (Plate) や写真（原則として白黒）は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は（14×20 cm）以内にまとめる。図は台紙（20×26 cm 以下）に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。
7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を<sup>1)</sup>, <sup>1,3,6)</sup>, <sup>2-5)</sup>のように記す。

雑誌の場合

著者名（6名以下の場合には全著者名、7名以上の場合には最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける）、表題、掲載誌名、発行年（西暦）、巻数（必要であれば号数）、頁数（始一終）の順に記す。雑誌略名は、日本医学雑誌略名表（日本医学図書館協会編）およびIndex Medicusに従う。

<例>

- 1) Sakaguchi K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959; 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表の試み. 母性衛生 1978; 19: 76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様), 表題, 編者名, 書名, 版数, 発行地, 発行所, 発行年(西暦), 引用頁(始一終)または(1~終頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には, 著者名, 書名の順とする。

<例>

- 1) Wintrobe MM: Clinical Hematology: The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia, Lea and Febiger, 1974: 80-220
- 2) Schwarts TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 3) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈, ア

ミラーゼ.

- 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎編. 検査診断マニュアル. 第1版. 東京: メヂカルフレンド社, 1978: 96-99
- 4) 城戸幡太郎: 文化心理学の探求. 東京: 国土社, 1970: 1~390
  - 5) Pedretti LW: 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口昇, 青木真由美訳). 東京: 協同医書出版社, 1985: 103-115

**原稿の枚数:** 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13 cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

**校正:** 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

**印刷費:** 原画の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費は著者の負担とする。

**別刷:** 別刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

## 編集後記

診断、治療の分野における最近の進歩は目ざましいものがある。例えば、分子生物学の最新の成果である特定 DNA 配列の増幅法を応用した癌の診断、超音波や核磁気共鳴を利用した画像診断など枚挙にいとまがない。先天性胆道閉鎖症など肝疾患の治療を目的とする生体肝移植手術の成功は、未だ記憶に新しいところである。

時代の先端を進む華々しさはなくても、本学部の教官は健康を幅広い視野から全人的に捉える姿勢のもとに、診療、ケア、リハビリテーション、助産、臨床検査など多方面の領域で、多忙な教育の傍ら日夜地道な研究を続けている。

ここに、紀要第10号をお届けする。第3代主事富田仁名誉教授並びに初代編集委員長故坂口吉蔵教授のご尽力により、紀要創刊号が刊行されてから、はや10年の月日が経過した。この間を回顧すれば、総説8編、原著論文81編、報告2編の総計91編の論文が掲載され、紀要第7号からは健康科学集談会抄録が掲載されるようになった。さらに、平成元年度からは、人間健康学プロジェクト・チームの業績を纏めた「健康人間学」を別冊として出版するに及んでいる。

前年度からの懸案であった投稿規定の一部改定を本号から実施した。主たる改定内容は、ワープロ使用原稿の増加に鑑み投稿者の便宜を図るため、文献欄のピリオド、コンマなどを最小限にとどめた点である。編集委員会は、本誌をより良い姿にするご提案をお待ちしている。

本紀要の論文形式に一部統一を欠く点が見られるが、創刊当初からの編集方針に従い著者の自由な表現を重視する姿勢の表われであり、ご了承頂きたい。

紀要創刊10年目にあたり、本学の学術誌としての本誌が、別冊「健康人間学」とともに教官各位の継続的なご努力を得てますます発展することを祈ってやまない。

1990年9月

紀要編集委員長	内田耕太郎	
編集委員	浅野仁子	福崎哲
	加茂映子	神原啓文
	川寄伸子	木村信子
	小西昭	松本雅彦
	三井政子	森永敏博
	野村巖	(ABC順)

---

### 京都大学医療技術短期大学部紀要 第10号

Annual Reports of the College of Medical  
Technology, Kyoto University No. 10

平成2年11月25日印刷・発行

印刷 中西印刷株式会社  
京都市上京区下立売通小川東入る  
発行 京都大学医療技術短期大学部  
京都市左京区聖護院川原町53

---

**ANNUAL REPORTS  
OF  
THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY,  
KYOTO UNIVERSITY**

No. 10

1990

---

**CONTENTS**

**Originals**

Katoh, T. and Konishi, N.: The Lateral Eye Movements of Normal Children .....	1
Yamane, H. and Hukunaga, S.: Psychiatric Occupational Therapy and Visiting as Crisis Intervention .....	7
Osaka, R., Takenokuma, Y. and Arakawa, C.: Survey of What Indian and Japanese Student Nurses Feel to be Burdensome in Their Education .....	17
Mitsui, M. and Okamoto, K.: The Present Status and Problems of Midwifery Education at the Undergraduate Level .....	31
Ishii, S.: The Presence of Human Being-Philosophical Meditation-(Part 6) .....	43

**Abstracts**

The 4th Health Science Meeting in the College of Medical Technology, Kyoto University .....	57
--	----

<b>Instructions to Authors</b> .....	60
--------------------------------------	----

**Editorial Notes**

Ann. Rep. Col. Med. Tech., Kyoto Univ.
--

ISSN 0286 - 7850
---------------------